

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500153		
法人名	有限会社百々		
事業所名	グループホーム百々各務原(1F)		
所在地	各務原市那加桐野町7丁目44-1		
自己評価作成日	平成24年6月22日	評価結果市町村受理日	平成24年8月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2190500153&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成24年7月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家庭的な雰囲気の中で心安らぐ毎日を」の理念の基、利用者様とスタッフが交流を楽しんで生活している。敷地内の畑で収穫した野菜を食卓にのせ、花壇には季節ごとの花苗を利用者様と共に植え、常に季節が感じられるように配慮している。家族様の面会も多く、季節行事、外出、年に一回の一泊旅行は家族様とのコミュニケーションの場ともなっている。施設内行事には自治会への回覧を通して参加を呼びかけ、地域への繋がりを大切に考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念、「家庭的な雰囲気の中で心安らぐ毎日を」は明快である。利用者、家族、地域の人々にも分かりやすく、親しみの持てるように言語化している。管理者・職員は、ケアサービスのより処として、日々理念に立ち返り、家庭的で心安らぐように利用者の生活を支えている。ホームには、賢くつけられた人気者の小型犬(チワワ)が同居しており、利用者になつき、可愛がられ、癒しの役割を見事に担っている。事業所は、地域自治会の一員として、清掃活動や各行事に積極的にに関わり、地域に密着した事業運営を行うと共に、ホームは耐震構造で間取りが広いため、災害時には避難場所として地域に開放している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(1F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念を基にした利用者様への支援を行っている。理念は目に触れやすい場所に掲示し、ミーティング・研修時には確認を行い意識している。	地域に密着した運営を意識し、「家庭的な雰囲気の中で心安らぐ毎日を」を理念に掲げている。理念は、会議等の機会に全職員で共有している。日々の暮らしの中で、常に理念の原点を忘れず、心安らぐ毎日を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	参加できる地域の行事(市民清掃・盆踊り・幼稚園との交流など)には積極的に出かけている。またホームでの催し物には回覧板を通して町内の方の参加を頂いている。	自治会の清掃活動等や地域行事に積極的に参加している。幼稚園児との定期交流、各ボランティア団体の来訪も頻繁である。ホームの行事に近隣の人々を招き、時には野菜の差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事に参加して頂いた地域の方々と利用者様が触れ合う場を設け、認知症の方に対する支援の様子をお話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催し活動状況について細かく報告している。各担当者や利用者様、家族様から出された意見や感想は必ず全スタッフへ報告。出された意見に対しては検討・改善・実践できるようにミーティングや研修で話し合っている。	会議は隔月に開催し、行政、地域関係者、地域包括支援センター、利用者、家族が参加している。散歩の促進、転倒予防策、事故対応等の意見を討議し、サービスの向上に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の窓口パンフレットを置いてもらい、空き状況の問い合わせに応じている。行政からの通達や情報はメールで知らせていただき、不明点は担当者へ問い合わせ相談している。	運営推進会議に出席した担当者には、事業運営の実情を伝えている。また、担当者とはメール回線で通達や情報を交換している。事故報告や困難事例について随時相談し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は市の要請で行っている。ホーム内は1F・2Fの施錠はなく、往来は自由である。身体拘束については外部・内部研修にて勉強している。	身体拘束をしないケアを行っている。具体的な行為について、内外の研修で学び、全職員で周知している。交通量の多い道路に面しているため、市の要請により、ドアの高い位置で施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行うことで再確認している。		

岐阜県 グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームでも制度を利用している方がみえるので研修でもとりあげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い契約に至っている。不明な点は再度説明を行い理解を得よう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口に意見箱を設置。ご家族が面会に来られた際には何でも言っていただけるような雰囲気作りに配慮している。重要事項説明書にも苦情窓口の記載をし、説明している。出された意見は管理者へ報告し、必ず関係者と話し合い解決の方策を探っている。	家族が面会の際、直接話しを聴いている。家族が気付いたことは、その場で受けて、サービスの改善につなげている。これまでは、不穏を招くような利用者への言葉かけの配慮に対して、要望があり改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃よりコミュニケーションの機会を設けたり、1回/月のミーティングと研修で意見の出せる環境を作っている。意見はその場で解決できるように話し合っている。	管理者は、月例の会議で職員から意見を聞いている。ケア事例の検討、感染予防、研修や資格取得等の対応を話し合い、働きやすい職場環境づくりに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得を奨励し、資格手当を支給している。希望に合わせた勤務表作りに努めている。明るく楽しく働き易い職場環境を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に参加できる機会を多く設けている。研修後は発表する場を作り、全スタッフに研修成果を伝え、実践へと導いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	1回/月の地域ケア会議に参加することで交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず入居前面談をしてご本人、家族様よりホームでどう生活していきたいかをお尋ねしている。入居後はセンター方式を活用して、家族様やご本人の思いの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談でお話を伺い、ホームとして「できること」と「できないこと」をお伝えしながらご家族様の思いをくみ取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に必ず関わっている他事業所と連携をとり、情報提供を受けている。それを基にご本人、家族様の意向を反映させたプランに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事仕事等を通して協力し合った生活が営めている。1回/年の旅行も関係を深める行事として存在する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には出来る限りホームに来ていただき、一緒に支援していく方針をお伝えしており、概ね家族様の理解を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会を大切にしている。スタッフもお話に参加させていただくこともある。また、入居前からのかかりつけ医の往診も受け入れており、面会時間の制限も設けていない。	家族、親戚、友人の面会が多く、ゆっくり過ごせる場を提供している。馴染みの場所や、外泊、法事など家族と協力して出かけられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの席を変更したりして、利用者様同士が関わるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ転居された方へは了承を得て面会へ出向いている。季節のお便りや、TELにてご様子をお伺いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中から利用者様に添うプランを心掛けている。無理強いせず、その人本位の支援を実践している。	日常の生活の中で、思いや意向を把握している。その人の得意なこと、好きなこと、苦手なことなどを把握し、その人らしい暮らしに役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、入居前に家族様に生活歴をお尋ねしている。入居に至っては必ず関わった事業所から情報提供を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一緒に過ごすことで一日の過ごし方を把握している。観察によりその日の体調を把握している。出来ることが継続できるように支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議には出来るだけご本人に参加して頂くか、家族様に意向をお伺いしている。場合によってはかかりつけ医の意見も頂き、スタッフ全員で介護計画を作成している。	月例の担当者会議でモニタリングを行っている。本人・家族と話し合い介護計画を作成し、要望や変化に応じて柔軟に見直している。特に困難な課題がある場合は、かかりつけ医から意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1回/月のミーティング、カンファレンス、担当者会議で意見を出し合い計画の見直しに役立てている。また記録は常に計画を意識して記入している。変化時は経過報告書に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームとして「できること」の支援はしているが「できないこと」であればNPO支援と結びつけて対応している。		

岐阜県 グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受入れを行い、ホーム側も地域の行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を変更することなく継続治療できるよう、家族様と相談して受診・往診を行っている。また変更希望時には適切に対応している。	これまでのかかりつけ医を継続している人が多い。受診は家族と協力して支援している。歯科は全員が協力医に変更し、受診には職員が同行している。それぞれの受診結果は、家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化にはTELにて連絡を取り、指示を頂いている。施設支援経過報告書にも体調変化や気づきを記録している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	かかりつけ医の指示や紹介状をもらい入院治療ができるよう努めている。入院中は訪問し、担当者との情報交換して早期退院に向けて話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在看取りができる体制が整っていないことを家族様に説明している。	重度化や終末期の方針を定めており、契約時に家族に説明している。常に医療行為が伴う場合、医療機関に移ることにしている。その場合、関係者で十分話し合い、円滑に転移できる支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防に依頼して救急救命講習を実施している。ミーティング・研修でも確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回/年の避難訓練を行っている。そのうち1回は夜間想定で実施。昨年度は消防、自治会と連携をとって行った。	年に2回、消防署員の立会いで避難訓練を行っている。訓練には、自治会の役職者が参加している。避難場所も近くに定めている。地域へは、自治会長経由の連絡網があり、必要な備蓄も整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには十分な配慮をしているが、スタッフ同士で気付いた点は話し合っている。	職員同士で、禁句について常に話し合い、誇りを損ねない言葉かけを行っている。トイレのドアは必ず閉め、パッドなどオムツ用品はさりげなく手渡している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の活動や衣類の選択などができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別の生活が出来るように支援しているが、その中で独立しないように交流できる時間作りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や外出時等、整容を見守り支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の栽培から料理の下ごしらえ、片付けをスタッフと一緒にしている。参加できない方には食事の説明をすることで楽しんで頂いている。	利用者は、食材の買出し、下ごしらえ、片付けなど職員と一緒にしている。職員も同じ食事を摂り、味付けや旬の食材を話題に、楽しい雰囲気づくりをしている。月に1回、外食に出かけるのを楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量を記録し、少ない方には嗜好品やゼリー等、形態をかえて提供。また医師とも相談し、目標摂取量を決めて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけすることで習慣づいている。介助が必要な方はスタッフ介助でケアしている。また、提携医受診にて衛生管理されている。		

岐阜県 グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、おむつやパットの使用を減らす努力をしている。	個々の排泄パターンを把握し、事前に声かけしながらオムツの使用量を減らしている。個々の量に合ったパットの選択と当て方を工夫し、不快感がないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操、水分の摂取を心掛けている。また腹部のマッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に日曜以外は入浴を行っている。何らかの事情で入浴が出来なかった場合は日曜日も対応している。個々で入りやすい時間帯を考慮している。	希望者には、毎日入浴できる体制である。回数にこだわらず、汚れがあれば、その都度浴室に促している。消極的な人には、会話を工夫したり、相性のよい職員が対応し、楽しい思いを語り合っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じ静養の時間を設けている。就寝時間はばらばらで、個々に合わせている。眠れない方は落ち着くまでスタッフと談話して過ごされる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書には全スタッフが目を通している。薬の変更時も全スタッフが情報を共有している。体調変化時は経過報告書に記載し、主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	馴染みの趣味等を活かせるよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、買い物を個別プランに盛り込み実施している。興味のない方は無理強いせず、ユニット毎の夕食や行事外出、1回/年の旅行を提案し、家族様のご理解を頂き行っている。	外出や買い物は個別に行っている。季節の花見やイチゴ狩り、さらに年に1回は、一泊旅行にも出かけている。家族から希望の多い日常的な散歩は、コースの選定が課題となっていて、なかなか出掛けられない。	散歩コースを大きめに設定するのではなく、1日の流れの中で、日常的に戸外で生き生きと過ごせるような時間帯を設け、外へ出かけることが楽しみとなるような取り組みに期待したい。

岐阜県 グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にホームでの金銭所持はないが、自ら管理したい方は家族様の同意のもと小遣い程度所持することも可能。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様の承諾を得て電話、手紙のやり取りを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて窓やカーテンの開閉、TVの音量調整等に気をつけている。壁面や飾り付け等、季節感が感じられるよう工夫をしている。	共用の居間と廊下は、広くゆとりのある間取りの設計である。対面する台所からは、利用者の様子が容易に観察できる。季節の花、観葉植物、季節ごとに入れ替える手作り作品、行事の写真などを要所に飾り、生活感を工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士が把握できており、一緒に語り合える場所作りを支援している。またお気に入りの場所も把握しているので、それぞれ好きな場所で過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や寝具を使われている。筆筒の上には個人の趣味で飾り付けてある。	居室の表札は、個性豊かな手づくりのもので掲示している。見やすい時計やカレンダー、家族の写真もある。家族と一緒に、整理ダンスに内容を分かりやすく表示して収納し、居心地よい部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「トイレ」「お風呂」と分かりやすく表示し、ご自分で身の回りのことがし易いようにしてある。居室扉には表札を掲げ、読みやすいひらがなで表記してある。トイレには緊急呼び出しブザーが設置してある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500153		
法人名	有限会社百々		
事業所名	グループホーム百々各務原(2F)		
所在地	各務原市那加桐野町7丁目44-1		
自己評価作成日	平成24年6月22日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成24年7月9日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(2F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念を基にした利用者様への支援を行っている。理念は目に触れやすい場所に掲示し、ミーティング・研修時には確認を行い意識している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	参加できる地域の行事(市民清掃・盆踊り・幼稚園との交流など)には積極的に出かけている。またホームでの催し物には回覧板を通して町内の方の参加を頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事に参加して頂いた地域の方々と利用者様が触れ合う場を設け、認知症の方に対する支援の様子をお話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催し活動状況について細かく報告している。各担当者や利用者様、家族様から出された意見や感想は必ず全スタッフへ報告。出された意見に対しては検討・改善・実践できるようにミーティングや研修で話し合っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の窓口にパンフレットを置いてもらい、空き状況の問い合わせに応じている。行政からの通達や情報はメールで知らせていただき、不明点は担当者へ問い合わせ相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は市の要請で行っている。ホーム内は1F・2Fの施錠はなく、往来は自由である。身体拘束については外部・内部研修にて勉強している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行うことで再確認している。		

岐阜県 グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームでも制度を利用している方がみえるので研修でもとりあげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い契約に至っている。不明な点は再度説明を行い理解を得よう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口に意見箱を設置。ご家族が面会に来られた際には何でも言っただけのような雰囲気作りに配慮している。重要事項説明書にも苦情窓口の記載をし、説明している。出された意見は管理者へ報告し、必ず関係者と話し合い解決の方策を探っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃よりコミュニケーションの機会を設けたり、1回/月のミーティングと研修で意見の出せる環境を作っている。意見はその場で解決できるように話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得を奨励し、資格手当を支給している。希望に合わせた勤務表作りに努めている。明るく楽しく働き易い職場環境を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に参加できる機会を多く設けている。研修後は発表する場を作り、全スタッフに研修成果を伝え、実践へと導いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	1回/月の地域ケア会議に参加することで交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず入居前面談をしてご本人、家族様よりホームでどう生活していきたいかをお尋ねしている。入居後はセンター方式を活用して、家族様やご本人の思いの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談でお話を伺い、ホームとして「できること」と「できないこと」をお伝えしながらご家族様の思いをくみ取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に必ず関わっている他事業所と連携をとり、情報提供を受けている。それを基にご本人、家族様の意向を反映させたプランに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事仕事等を通して協力し合った生活が営んでいる。1回/年の旅行も関係を深める行事として存在する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には出来る限りホームに来ていただき、一緒に支援していく方針をお伝えしており、概ね家族様の理解を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会を大切にしている。スタッフもお話に参加させていただくこともある。また、入居前からのかかりつけ医の往診も受け入れており、面会時間の制限も設けていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方を結びつける支援を行っている。一人に名なりがちな方にはスタッフが介入してコミュニケーションへと繋げている。ユニット毎の外出行事では全員が楽しめるよう気配りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ転居された方へは了承を得て面会へ出向いている。季節のお便りや、TELにてご様子をお伺いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画を作成するときにはご本人の意向をお尋ねしている。困難な場合は家族様の意向やスタッフの気づきからご本人の意向へと結びつけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、入居前に家族様に生活歴をお尋ねしている。入居に至っては必ず関わった事業所から情報提供を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録をとることで一日の過ごし方を把握している。センター方式の活用もある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議には出来るだけご本人に参加して頂くか、家族様に意向をお伺いしている。場合によってはかかりつけ医の意見も頂き、スタッフ全員で介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1回/月のミーティング、カンファレンス、担当者会議で意見を出し合い計画の見直しに役立てている。また記録は常に計画を意識して記入している。変化時は経過報告書に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームとして「できること」の支援はしているが「できないこと」であればNPO支援と結びつけて対応している。		

岐阜県 グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受入れを行い、ホーム側も地域の行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を変更することなく継続治療できるよう、家族様と相談して受診・往診を行っている。また変更希望時には適切に対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化にはTELにて連絡を取り、指示を頂いている。施設支援経過報告書にも体調変化や気づきを記録している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	かかりつけ医の指示や紹介状をもらい入院治療ができるよう努めている。入院中は訪問し、担当者と情報交換して早期退院に向けて話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在看取りができる体制が整っていないことを家族様に説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防に依頼して救急救命講習を実施している。ミーティング・研修でも確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回/年の避難訓練を行っている。そのうち1回は夜間想定で実施。昨年度は消防、自治会と連携をとって行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには十分な配慮をしているが、スタッフ同士で気付いた点は話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の能力を見極めながら、表情等で思いをくみ取る努力をしている。そのためにもコミュニケーションの時間を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の能力や趣味を見つけながら生活に潤いが持てるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みは理解しているのでその人らしい装いを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の栽培から料理の下ごしらえ、片付けをスタッフと一緒にしている。参加できない方には食事の説明をすることで楽しんで頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量を記録し、少ない方には嗜好品やゼリー等、形態をかえて提供。また医師とも相談し、目標摂取量を決めて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけすることで習慣づいている。介助が必要な方はスタッフ介助でケアしている。また、提携医受診にて衛生管理されている。		

岐阜県 グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、おむつやパットの使用を減らす努力をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操、水分の摂取を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に日曜以外は入浴を行っている。何らかの事情で入浴が出来なかった場合は日曜日も対応している。個々で入りやすい時間帯を考慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の空調調整は個々に合わせて行っている。就寝時間は様々であるので個別に対応している。眠れない方は眠れるまで談話することもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書には全スタッフが目を通して行っている。薬の変更時も全スタッフが情報を共有している。体調変化時は経過報告書に記載し、主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を用い、生活歴を把握してホームでの生活に活かして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、買い物を個別プランに盛り込み実施している。興味のない方は無理強いせず、ユニット毎の夕食や行事外出、1回/年の旅行を提案し、家族様のご理解を頂き行っている。		

岐阜県 グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にホームでの金銭所持はないが、自ら管理したい方は家族様の同意のもと小遣い程度所持することも可能。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様の承諾を得て電話、手紙のやり取りを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は日がよく入り明るく、季節ごとにスタッフが花を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士が把握できており、一緒に語り合える場所作りを支援している。またお気に入りの場所も把握しているので、それぞれ好きな場所で過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様が本人にとって必要だと思われるものを持参されている。迷う品についてはスタッフとも相談し、できるだけ使い慣れた品をお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「トイレ」「お風呂」と分かりやすく表示し、ご自分で身の回りのことがし易いようにしてある。居室扉には表札を掲げ、読みやすいひらがなで表記してある。トイレには緊急呼び出しブザーが設置してある。		